

いのちの言の葉2013

富山県教育委員会平成25年度いのちの教育総合支援事業

「いのちの大切さ」

射水市立大島中学校

平成25年6月20日実施

射水市立放生津小学校(平成25年6月21日)、射水市立大門小学校(平成25年6月24日)でも実施

【いのちの先生】

永井 友恵先生

・世界移植者スポーツ大会出場

【授業の概要】

闘病生活を乗り越えて、水泳選手として大会に出場された経験をもとに、生きることのすばらしさ、命のありがたさ、そして経験することの大切さについてお話しいただきました。



(児童の感想)

いのちのじゅぎょうので、金メダル9こもっているといっていたので、すごいなと思いました。私もいのちをもらったので、だいにしたいなと思いました。いのちをたいせつにし、おやもたいせつにしたいです。

(児童の感想) いのちの先生、ながいさんが来て、ベんきょうをしました。ながいさんがいっていたことを、わたしもいかそうと思いました。DVDを見て、どりよくやろうとする気持ちを知りました。「やるか、やらないかというのは、自分できめること。いろいろとその時に考えてやればいい」とながいさんは言っていた。このことをわすれないうで、いかそう、やってみようと思いました。ながいさんが言っていたことは、とても大切なことだと分かりました。



(児童の感想) わたしは、ながいさんからお話を聞いて、やれないけどやってみようと思いました。いのちは、とてもたいせつなものなんだと思いました。毎日、学校に行っているのが、ふつうだけど、いきなりびょうきになったながいさんは、つらいおもいをして、かわいそうです。だから、わたしも、いのちをたいせつにしていきたいです。



(児童の感想)

わたしは、ふつうにあしたがくると思っていたけど、そうじゃありませんでした。ながい先生の話の話をきいて、ほんとうに「じぶんで、じぶんのことをするほうがいい」ということを学べて、とてもとてもよかったです。